

ソフト
バレー
ボール

第1位グループ3位

いわぬまSVC

順位別リーグ戦で1位グループに入り、銅メダルを獲得。チームとして初めての上位入賞に、監督を務めた長田幸蔵さん(61)は「チームワークがうまくいった結果。全国の皆さんと交流することが一番の目標だったが、勝てたのはうれしい」と笑顔を見せる。

「いわぬまSVC」は宮城県ソフトバレーボール連盟の役員を中心に、20～70代の男女が集まって練習しているチーム。ねんりんピックには60代以上のメンバー7人で出場。来年の宮城・仙台大会に役立てようと、くまもと大会の



運営視察にも力を入れた。「くまもと大会は、選手の迎え方と競技運営が大変素晴らしかった。勉強になった」と長田さん。視察の成果を生かして準備に取り掛かっている。

ねんりんピック2011熊本

10月15～18日

宮城県勢が活躍

年に一度のシニアスポーツと文化の祭典「ねんりんピック2011熊本」が閉幕した。宮城県からは19種目に128人の選手が出場。各種目で善戦し、全国の仲間たちと交流を深めた。熱気が冷めやらない入賞者に今大会の感想を聞いた。来年は、いよいよ宮城での開催。その意気込みが早くも伝わってくる。

ダンス

上天草市特別賞

多賀城市 和田雅美さん(65)

会場となった上天草市の名士で「天草五橋」の生みの親、森慈秀氏と同じ誕生日だったことから特別賞を受賞。自宅が東日本大震災で津波の被害を受け「一時は出場を諦めようとしたこともありましたが、行ってよかった」と喜ぶ。

練習も不十分な中での出場だった。「姿勢が大切な競技なのに、4カ月もブランクが空いて筋肉が衰えてしまった」と振り返る。

団体戦では最終予選まで進んだが、入賞はかなわなかった。ダンススポーツ競技の監督で、雅美さんとペアを組んだ夫の功さん(67)も「みんな頑張ったが、正直悔いは残る」。夫妻はそろって「ダンスに終わりはない。健康と技術の維持に努めて、生涯続けたい」と話していた。



後列左から3人目が和田功さん、前列左から3人目が雅美さん

ゴルフ

団体戦5位入賞(優秀賞)
個人戦Bクラス(65～69歳)7位入賞

大崎市古川 宮本文寿さん(67)

阿蘇山の麓で約60チーム、180人ほどが参戦した。佐藤昇さん(71・栗原市志波姫)、遊佐勉紀さん(66・大崎市古川)とチームを組んで団体戦で5位入賞。代表の宮本さんは、「コースを丹念に研究してきた佐藤さんが好調でした。遊佐さんも調子が良く、2人に助けられた」と振り返る。「全国の多くの方に震災のことをねぎらってもらい、ありがたかった」と感謝の言葉も。

言葉は控えめだが、宮本さんは個人戦で県勢最高の7位。ゴルフ歴は30年以上になり、大崎市三本木のゴルフクラ



左から宮本さん、佐藤さん、遊佐さん

ブなどではクラブチャンピオンに輝いたこともある。ねんりんピックの参加は2回目。「80歳代でもいい結果を残す全国の先輩方と出会えるので、とても張り合いになります。健康を大事に、一つでも成績が上がるよう精進したい」と張り切っている。

テニス

熊本市特別賞

富谷町 渡部静江さん(61)

「熊本市特別賞」は、熊本藩初代藩主の加藤清正公の誕生日7月25日(または旧暦6月24日)と同じ日に贈られるユニークな賞。種目別の開始式で会場の大型スクリーンに名前が発表され、「サプライズでした」と笑う。

出場種目はテニス。60歳以上女子ダブルスの予選4位グループ同士のトーナメント戦で2回戦に進出した。結果は0対3で完敗。

「相手のボール回しが一枚も二枚も上手でした。こちらが肩に力が入り過ぎ、ミスしてしまった」と悔しがる。



テニスダブルスの宮城県メンバー。左から4人目が渡部さん

テニスとの出会いは15年ほど前。体調を崩し、医師にスポーツを勧められて始めたのがきっかけだ。初試合で負けた悔しさからのめり込み、どんどん上達した。今も、以前住んでいた仙台市若林区のテニスクラブで毎週汗を流す他、試合にも積極的に参加している。

囲碁

女性の部・個人1位(全勝)

仙台市青葉区 入江茂子さん(73)

父親の影響で囲碁を始めて30年以上。現在は女性だけの囲碁同好会「青葉会」に所属し、腕を磨いている。

「囲碁は手談(しゅだん)。会話をしなくても、さまざまな方と親しくなれるのが魅力。それでも、震災から1カ月経って青葉会の会員と再会した時は、手より口の方が動いていましたけど」とほほ笑む。

個人戦で全勝し、団体戦で5位入賞した今大会を「震災支援を実感した大会」と振り返る。「総合開会式の入場行進では、被災地の選手にひとときわ



きな声援と拍手が送られ、感動しました」。

「素晴らしい出会いをくれる囲碁を楽しみたいです」と目を輝かせた。